

# 次代のユニオンリーダーが集い 組合員の負託に応える組合について考える！

生保労連では毎年、各組合の役職員を対象に、組合活動に関する知識の習得や参加者同士の交流を目的として「ユニオンジャンボリー」を開催しています。今年は9月20日～21日に神奈川県三浦市で開催し、10組合14名の方が参加しました。



▲参加者のみなさん

## 1日目



▲各グループの結束を強める



▲藤村教授も交え熱心に討議

冒頭、生保労連の活動紹介を行った後、3チームに分かれインディアカ\*による対戦を通じて参加者同士の親睦を深めました。各グループ一致団結し白熱した闘いとなりました。

※インディアカとは羽根の付いた特殊なボールを手で打ち合う、バレーボールに似たスポーツです

その後はグループごとに分かれ、「組合員の負託に一層応える労働組合をめざして」をテーマに、組合の意義・役割とは何か、役割発揮に向けて何をすべきか等、熱心に議論しました。議論には法政大学大学院の藤村教授も加わり、参加者に直接アドバイスをいただきました。

## 2日目



▲全員で海岸をきれいに



▲創意工夫に富んだ発表

2日目は早朝から社会貢献活動として全員で三浦海岸の清掃活動を行いました。

その後、前日の討議内容について、各グループから工夫を凝らした発表があり、参加者の挙手により最優秀グループを選出しました。

最後に、藤村教授から討議内容に対してコメントをいただくとともに、「これからの労働組合の役割と労組活動のあり方」と題した講演をいただきました。

参加者は2日間にわたり、グループ討議や講演を通じて労使関係のあり方や労働組合の役割について学ぶとともに、所属組合を越えて交流を深めました。

## 参加者の感想（抜粋）

- 生保労連の活動を知ることによって、改めて組合の役割・重要性を確認できた。
- インディアカを通じてチームのメンバーと自然にコミュニケーションをとることができ、その後の討議が非常にやりやすかった。
- 他産別の取組みや過去の事例を含めて講義いただいたことで、労働組合としての役割や意義の確認が出来て良かった。
- 討議をする中で組合本部の役割を再認識することができた。
- 同じ悩みを持つ仲間との輪を大切に、今後の活動に活かしていきたい。